

第13回

# 文字

～文字をデザイン、文字でデザイン～

美術教育監修・執筆

上野行一

ふだんの生活の中で何気なく使っている文字のフォント。似ているようで違う、その味わいを楽しんでみよう。今回は文字のデザインについて、デザインとその印象、文字を主役にしたアート、伝わるデザインなど、その魅力について学ぶ。

学習前  
チェック!

さまざまな文字は、用途や意図によって考えられ、作りだされている。フォントと呼ばれる文字のデザインはどのように使われているのだろう。雑誌や新聞、テレビやインターネットなどから調べてみよう。

## 文字のデザイン

美しく読みやすい文字は、長い時間をかけて改良、改善されてきた。その努力はいまもずっと続けられている。たとえば、番組で紹介するゴシック体は明治時代にサンセリフ体という英文書体を参考にして作りだされたのが始まりだった。

その後ゴシック体はより読みやすく美しいデザインになるように改善と改良が続けられ、今では下記のゴシックのようにさまざまな特徴をもったフォントが生まれている。

文字のデザインが変わるだけで、印象が変わる。明朝体やゴシック体という書体自体の分類の違いはもちろんだが、このように同じゴシック体の仲間であってもずいぶん印象が違うことがわかるだろう。

あ あ あ あ

## 文字でデザイン

番組で紹介する山城隆一や芹沢銈介の作品は文字で絵を描いたり、文字を絵で表したりしている。我が国には古来から文字と絵を分け隔てて考えない「書画一致」という思想があった。書と絵画とはそもそも同じ起源をもち、筆法が共通するところから、書と絵画は共通の土台にあるという考え方である。

漢字やかなの形象性が発想を促し、文字でデザインすることを身近にしている。文字がもつ視覚的な特徴、個性を活用して文字を主役にしたアートを楽しんでみよう。



## ● 伝わるデザイン

情報を伝えるのが文字の使命だが、伝えるということを第一に考えると文字は飾りのないシンプルなものが多い。しかし、デザインを工夫することによって感情を添えて伝えることも可能になる。

新聞や雑誌、テレビやインターネットなど情報のメディアでは、情報の内容によってフォントを使い分けたり、場合によっては文字をつくりだしたりする。文字のデザインには人々の感性が働いているのだ。

